

映像の中の食卓 「カルテット」が映し出す現代の “家族”のかたち

他者と共に「食卓を囲む」という行為は、人と人との関わりを語るうえで欠かせない営みである。私たちの価値観や暮らしの変化を映し出す映像作品においても、食卓を描いたシーンは数多く見られ、登場人物の心理的距離を表現する効果を持つ。本研究では単独世帯の増加や夫婦と子供の世帯の減少など、家族のかたちが変化する現代において我々が「なぜ食卓を囲むのか」というテーマについて、テレビドラマ「カルテット」をはじめとする映像作品の食卓シーンへの検討を行った。結果、近年の映像作品においても「主体性を持って家族になる」様子が描かれており、食卓シーンは登場人物らが親密になる過程を描く役割を担っていた。家族やライフスタイルの多様化が進んだ現代において、「食卓を囲む」意義は、「人々が親密圏に所属する安心感や居場所を求めるためにある」というのが本研究における結論である。